

センター通信

平成 24 年 8 月 1 日

「絆創幸 2」 ～絆を創ってみんな幸せになろう!～

主催：協働わーくす エ・コラボ 共催：太宰府市 NPO・ボランティア支援センター

7月8日(日)、人や想いをつなぐ「絆創幸2」が、協働わーくすエ・コラボの主催で開催され、当日は太宰府市 NPO・ボランティア支援センターのスタッフもお手伝いとして参加して来ました。

「絆創幸2」は、3月のチャリティーイベント“絆創幸”が好評だったのに続き、今回は医療関係者として東日本大震災の被災地にボランティアで行かれた方々のお話を聞き、参加者同士も様々な思いを伝え合う、そんなイベントです。



中央薬局おおざの店 竹下洋平氏

薬剤師の竹下先生は、被災地で薬剤師の役割が、とても重要だったとお話されました。その理由は、限られた薬で賄うため代替調剤の知識が必要であること、さらに小児薬物量や商品名ではなく成分名の知識が必要であること、などです。

仮設薬局で活動された経験から、物資を送るときは中身を統一してほしい。箱を開けなくてもわかるように外側に内容を詳しく書いてほしい。と、おっしゃっていました。また、災害の準備として、貴重品などと一緒に薬手帳やいつも服用している薬を確保しておくことも重要だそうです。

→ 次ページへ続く →



～ 前ページより ～



歯科医師である太田先生は、被災地の方の口腔ケアなどについてお話ししてくださいました。避難所での生活にとって水はとても貴重です。まずは飲み水・食料に使う水が優先されるので、うがいや歯磨きには十分な水

おおた歯科クリニック 院長太田秀人氏

を使うことはできません。その環境が長く続いていると虫歯が悪化し健康面にも悪い影響が出てくるそうです。また太田先生は、顔の見える関係を築くことが大切だと言われました。「顔が見える関係＝助け合える関係」日頃からそんな絆を創りあげておくことが災害に対する日頃の備えになるのでは、とお話しされました。



今回の「絆創幸2」では様々な立場の方たちから“気持ち”が伝えられました。明確な答えや結論は出ないけれど、地域にいる私たちが様々な気持ちを共有することでつながっていく。緩やかなつながりではあるけれど、それが災害の備えのひとつとして大切なことではないでしょうか。



限られた時間の中で開催された「絆創幸2」でしたが、専門の方のお話から得るものも多く、また地域の人たちから伝えられるお話に共感し合い、有意義な時間を過ごしました。

太宰府市NPO・ボランティア支援センター 榊

8月・9月の講座の予定は、ホームページをご覧ください

申し込み・問い合わせは「太宰府市NPO・ボランティア支援センター」にお願いします。

太宰府市五条三丁目1番1号 いきいき情報センター 1階

平日 10:00～18:00 土曜日 12:00～18:00

(休業日 毎週日曜日、祝日、毎月最終水曜日、

8月13日～15日、12月28日～1月4日)

電話 092-918-3633 ファックス 092-918-3644

E-mail dazaifu-volusen@wish.ocn.ne.jp

HP <http://dazaifu-volusen.sakura.ne.jp/>



みんなの広場

“太宰府市NPO・ボランティア支援センター”を覗くと、いつも明るく、気さくにスタッフが出迎えてくれます。奥の方では、楽しそうに歴史の勉強会、その隣では講座帰りの受講生の井戸端会議、夕方からは有志が集まってイベントの打合せ、支援センターはさまざまな団体の方々が気軽に利用できる、本音で語り合える開放的で居心地のよい場所です。

居心地の良さに惹かれ、利用させていただいて早5年、人と人の間でもまれて角張った心が少し”まあるく”なったような気がします。

「ボランティア活動」と聞くと、なあ〜んとなく特別な人しか参加しないような感じがしますが、私は太宰府の住民として”ご近所付き合い”の感覚で気負わずに気軽に参加しています、”出来る事を、出来る時に”が基本、活動を長続きさせる秘訣かもしれません。

また、幾つになっても意欲的に動かれる勉強熱心な人生の先輩方が太宰府には沢山いらっしゃる事にはびっくり〜、刺激を受けながら共に成長させていただいています。

色々な垣根を越えて”困った時はお互い様”の気持ちで人生の先輩方が活動されている姿は、私達現役世代も見習わなくてははいけませんね。

若い世代も加わり太宰府の地域力も年々パワーアップしています。秋に向けて太宰府のイベントも目白押しです、ボランティアに興味のない方もぜひ一度支援センターを覗いてみてください、知らなかった太宰府を再発見できるかもしれませんよ。

忙しい中でも、心にゆとりを持って生きられるようになったのもボランティア活動があったから。私にとって自分自身を見つめ直す為の貴重な時間です。

ボランティア活動を支えて下さっている支援センターのスタッフの皆さま、本当にありがとうございます。

碓 真理子(センター利用者)

災害ボランティア講座

「これまでに経験したことがないような大雨」



7月11日からの九州北部豪雨に対し、強い注意を促すため気象庁が初めて使った表現です。死者・行方不明は30人を越える災害でした。東日本大震災以降、私たちが天災人災に日々さらされていることを考えさせられます。

センターでは、社会福祉協議会や防災士などのグループと協力して「災害ボランティア講座」を6回連続で企画しました。6月23日に第1回を開催した後にこの集中豪雨となり、刻々と水位を上げてくる御笠川を見ていると恐ろしさを感じました。

さて講座の第1回ですが、「災害救助の全体像」というテーマで、東北の災害支援で活躍された福岡県社会福祉協議会の田中課長からのお話がありました。初回ということで何人の方に来ていただけるかも分からずに準備を進めました。会場にあふれんばかりの参加者がありとても感謝しております。



第2回は「ボランティアコーディネーターについて」、第3回と第4回（8月25日、9月22日）は、水害でダメージを受けた地域の支援活動をリードした飯塚市社会福祉協議会の方に来ていただき、「災害ボランティアセンター」の具体的な運営について、うかがう事になっています。

また第5回と第6回では「いきいき情報センター」を会場に、自然災害が太宰府で起きたという想定で実習も行います。

遠方での災害に心を痛めることも多々ありますが、今回は地域での災害に備えることや災害が起きた時に、どのように地域の中で助け合っていくかについて、より具体的に学んでいくプログラムになっています。皆さんもいっしょに考えてみませんか。

コーディネーター 松澤 秀樹

